『小学算数』4年　年間指導計画（詳細案）

●　さあ、算数の学習をはじめよう！　（上 p.2 ～ 10）

4月中旬［1時間］

時間	学習活動
1	○前学年までの学習内容で解決できる問題について、数学的な見方・考え方を働かせて問題解決的な学習を進めることを通して、算数科における学習の進め方を確認する。 ・教科書の巻末に切り離しが可能な「学び方ガイド」「算数で使いたい見方・考え方」が付いていることを紹介し、算数の学習の進め方を確かめたいときには、いつでも、このシートを見るとよいことを知らせる。
※	・「算数ノートをつくろう」に示されたノート例を見て、算数のノートのかき方を学級で共有する。
※	・「教科書の使い方」を見て、教科書の各コーナーの意図やマークの意味などを確認する。 ・「二次元コード」のコンテンツの種類や使うときの注意事項を確認する。

1　大きい数〔一億より大きい数を表そう〕　（上 p.11 ～ 24）

4月中旬～4月下旬［8時間］

【単元の目標】

（1）億や兆の単位について知り、4桁ごとに新しい単位が用いられることを理解するとともに、兆までの数をよんだり、表したりすることができる。また、3桁以上の大きい整数の乗法の計算ができる。

（2）4桁で区切るなど単位のまとまりを考えて大きい数をよんだり、比べたりするとともに、これまでに学んだ一、十、百、千の繰り返しと統合的にとらえて考えることができる。また、これまでに学習した計算を活用して、桁数の多い整数の乗法の仕方を発展的に考えることができる。

（3）十進位取り記数法によって、10個の数字でどのような大きい数でも表すことができるよさに気づき、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①億や兆の単位について知るとともに、4桁ごとに新しい単位が用いられていることを理解している。 ②億や兆を用いる大きい数を、十進位取り記数法によって表すことができる。	①4桁で区切るなど単位のまとまりを考え、9桁を超えるような数を読んだり、数の大きさを比べたりしている。 ②これまでに学んだ一、十、百、千の繰り返しと統合的にとらえ、さらに大きい数についても類推して考えている。 ③十進位取り記数法のしくみに着目して、桁数の多い整数の乗法の計算の仕方を考えている。	①十進位取り記数法によって、10個の数字でどのような大きい数でも表すことができるよさに気づき、生活や学習で見られる大きい数を進んで理解しようとしている。 ②学習したことをもとに、桁数の多い整数の乗法の計算の仕方を考えようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.11）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　数の表し方（p.12 ～ 18）　3時間			
1	○単元アプローチ（p.12 ～ 13） ・日本や世界の人口のよみ方を考える。		知①②：ノート 思①：観察・発言 態①：観察・ノート
	○身の回りで見られる大きい数には、億の位があることを知り、千億の位までの数のよみ方や表し方、構成について、千万の位までの位取りのしくみをもとに単位のまとまりで考えることができる。	・日本の人口のよみ方を調べることを通して、一億より大きい数の表し方を調べる。 ・億の単位とその表し方を知る。	

2	○兆の位があることを知り、千兆の位までの数のよみ方や表し方、十進位取り記数法について理解するとともに、これまで学んだ一、十、百、千の繰り返しと統合的にとらえることができる。	・福岡県の予算のよみ方を調べることを通して、千億より大きい数の表し方を調べる。 ・兆の単位とその表し方を知る。	知①②：ノート 思②：観察・発言
3	○数直線をもとに、大きい数の系列を理解し、大小比較をすることができるとともに、大きい数を多面的な見方をすることによって、加法的・乗法的にとらえることができる。	・数直線上の数のよみ方を調べ、千兆の位までの数の系列、大小関係を調べる。 ・3兆5600億をいろいろな見方で表すことを通して、千兆の位までの数の加法的構造、乗法的構造を調べる。	知②：ノート 思①：発言・ノート
※	「なるほど算数」（p.18）で数を3桁ごとに区切って表すことについて確認する。		
2　数のしくみ（p.19～20）　2時間			
4	○十進位取り記数法のしくみをもとに位取り表を使って考察し、10倍、100倍、$\frac{1}{10}$にした数の位の変わり方を理解する。	・38億を10倍、100倍した数、$\frac{1}{10}$にした数の表し方を調べ、位の変わり方をまとめる。	知②：ノート 思①：観察・発言
5	○それぞれの位の数字に着目して大きさを考察することによって、整数はどんな大きい数でも、0から9までの数字を使って表せることを理解する。	・0から9までの数字をどれも1回ずつ使って、10桁の整数をつくる。	知②：ノート 態①：観察・ノート
3　大きい数のかけ算（p.21～22）　2時間			
6	○3桁×3桁の筆算について、これまでの乗法の計算の仕方をもとに考えようとし、その仕方を説明することができる。	・345×187、279×403の計算を、既習の計算の仕方をもとに考える。	思③：発言・ノート 態②：観察・ノート
7	○末尾に0がある数の乗法の簡単な筆算の仕方を、十進位取り記数法のしくみに着目して考え説明することができる。	・2800×320の計算の仕方の簡単な方法を考える。	思③：観察・ノート
学習をたしかに（p.23～24）　1時間			
8	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「大きい数」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②：ノート 思①②③：ノート 態①②：ノート
※	○「ぐっとチャレンジ」（p.148）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

2　わり算（１）〔わり算のしかたをくふうしよう〕　（上 p.25 ～ 43）

４月下旬～５月上旬［11 時間］

【単元の目標】

（１）除数が１位数で、被乗数が２、３位数の除法の計算の仕方を理解し、筆算で計算ができる。
（２）これまでに学習した基本的な計算の仕方をもとに、除数が１位数で、被乗数が２、３位数の除法の計算の仕方を、図や式、ことばなどで考え説明することができる。
（３）これまでに学習した基本的な計算の仕方を活用し、除数が１位数で、被乗数が２、３位数の除法の計算をよりよい方法で解決することのよさを感じ、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①除数が１位数で被除数が２位数や３位数の場合の除法の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解している。 ②除数が１位数で被除数が２位数や３位数の場合の除法の筆算の仕方について理解している。 ③除数が１位数で被除数が２位数や３位数の場合の除法の計算が確実にできる。 ④除法を用いる場合を知り、適切に用いることができる。 ⑤簡単な除法について、暗算で答えを求めることができる。 ⑥用語「商」を知り、整数の除法において、被除数、除数、商及びあまりの間の関係について理解している。	①除数が１位数で被除数が２位数や３位数の場合の除法の計算の仕方を考え説明している。	①暗算を、筆算や見積りに生かし、主体的に計算の仕方を考えようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.25）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　２けたの数でわる計算（p.26 ～ 33）　５時間			
1	○単元アプローチ（p.26） ・いろいろな場面をわり算で表し、これまでに学習した計算を振り返ることで計算できるかどうかを考える。		知①④：ノート
2	○これまでの基本的な計算の仕方をもとに、（２位数）÷（１位数）＝（２位数）（あまりなし）の計算の仕方を考え説明することができる。	**【自分で みんなで】** ・72÷３の計算の仕方を考える。	知①④：ノート 思①：観察・発言
3	○具体的な場面と結びつけて、（２位数）÷（１位数）の筆算の仕方を考え説明し、筆算で計算ができる。	・（２位数）÷（１位数）（あまりなし）の筆算による仕方をまとめる。	知②：ノート 思①：観察・発言
4	○これまでの基本的な計算の仕方をもとに、（２位数）÷（１位数）（あまりありで、各位ともわり切れない場合）の筆算の仕方を考え、筆算で計算ができるとともに、用語「商」を知り、整数の除法において、被除数、除数、商、あまりの間の関係について理解する。	・93÷４の計算の仕方を考える。 ・「和」「差」「積」「商」という用語を知る。	知②⑥：ノート 思①：観察・発言 態①：観察
5	○（２位数）÷（１位数）（あまりありで、十の位がわり切れる場合）（あまりありで、九九１回適用の場合）の筆算の仕方を考え、筆算で計算ができる。	・（２位数）÷（１位数）の派生型の筆算による仕方を考える。 例　81÷２、45÷７	知①②③：ノート 思①：観察・発言

2　3けたの数をわる計算（p.34 ～ 39）　4時間			
6	○（3位数）÷（1位数）の計算の仕方を10や100を単位とした数に着目して考え、その計算ができる。	・600÷3の計算の仕方を考える。 ・120÷3の計算の仕方を考える。	知①：ノート 思①：観察・発言
7	○（3位数）÷（1位数）=（3位数）（あまりあり）の筆算の仕方をこれまでの計算の仕方をもとに考え、筆算で計算ができる。	・854÷3の筆算の仕方を考える。 ・（3位数）÷（1位数）の筆算による仕方をまとめる。	知①②③：ノート 思①：観察・発言 態①：観察
8	○（3位数）÷（1位数）（あまりあり、空位ありの場合）の筆算の仕方を考え、筆算で計算ができる。	・（3位数）÷（1位数）=（3位数）の派生型の筆算による仕方を考える。 例　843÷6、835÷4、905÷3、803÷4	知①②③：ノート 思①：観察・発言
9	○（3位数）÷（1位数）=（2位数）（首位に商が立たない場合）の筆算の仕方をこれまでの筆算との違いに着目して考え、筆算で計算ができる。	・258÷3の筆算の仕方を考える。 ・（3位数）÷（1位数）=（2位数）の筆算による仕方をまとめる。	知①②③：ノート 思①：観察・発言 態①：観察
※	「なるほど算数」（p.40）で世界のわり算の筆算のかき方について確認する。		
3　暗算（p.41）　1時間			
10	○（2、3位数）÷（1位数）の暗算の仕方を数の構成をもとに考えようとし、暗算で答えを求めることができる。	・（2、3位数）÷（1位数）の暗算の仕方を考える。	知⑤：ノート 態①：観察・発言
学習をたしかに（p.42 ～ 43）　1時間			
11	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「わり算（1）」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①～⑥：ノート 思①：ノート 態①：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.149）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

●　どんな計算になるか考えよう　（上 p.44）

5月上旬［1時間］

時間	学習活動
1	○問題文を読み、どのような計算で求められるかを考えて解決する。（乗法・除法場面の演算決定） ＊時間内で扱えない問題は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に取り組ませる。

3　折れ線グラフと表〔グラフや表に表そう〕　（上 p.45 ～ 64）

5 月中旬～ 5 月下旬［13 時間］

【単元の目標】

（1）折れ線グラフをよんだり、かいたりすることや、資料を 2 つの観点から分類整理して表に表したり、表から特徴をよみとったりすることができる。

（2）目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して表やグラフに的確に表現することによって、解決の過程や結果を多面的にとらえ考察することができる。

（3）グラフや表から変化の特徴や傾向、資料を目的に応じた観点で分類整理してよみとったり、変化のようすや分類整理をグラフや表に表したりすることのよさを振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①時系列データについて折れ線グラフに表して時間的変化をよみとることができる。 ②紙面の大きさや目的に応じて一目盛りの大きさをきめることができる。 ③複数系列のグラフや組み合わせたグラフをよみとることができる。 ④資料を分析するとき、2 つの観点から分類整理する方法を知っている。 ⑤資料を、2 つの観点から落ちや重なりがないように分類整理して表に表すことができる。	①変化のようすを折れ線グラフに表して考察している。 ②目的に応じて、観点を考えて必要なデータを集めている。 ③問題を解決するために適切な表やグラフを選択してデータの特徴や傾向をとらえ問題に対する結論を考えている。	①統計的な見方のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとしている。 ②データを収集したり分析したりした過程を振り返り、よりよい表現や結論の出し方を考えている。 ③統計的な問題解決のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.45）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　変わり方を表すグラフ（p.46 ～ 54）　6 時間			
1	○単元アプローチ（p.46） ・気温の変わり方が見たいときにはどのようにすればよいか考える。		態①：観察・発言・ノート
2	○変化のようすを表すのに適した方法を考えるとともに、「折れ線グラフ」の意味を知り、グラフをよむことができる。	・変わり方の表し方を考える。 ・「折れ線グラフ」の意味を知り、その見方を調べる。	知①：発言・ノート 思①：観察・発言
3	○折れ線グラフの線の傾きと変わり方の関係について考え、その傾き具合から変わり方をよみとることができる。	・折れ線グラフの線の傾き具合を比べ、変わり方をよみとる。	知①：ノート 思①：観察・発言
4	○2 つの折れ線グラフを比較して、2 つの数量の変化のようすについて考え、折れ線グラフを用いると、わかりやすく表すことができることを理解する。	・2 つの折れ線グラフを比べ、変わり方のちがいを調べる。	知③：発言・ノート 思①：観察・発言
5	○2 つの折れ線グラフの目盛りの取り方のちがいと折れ線の傾き具合との関係に着目して、2 つの数量の変化のようすを考察することができる。	**【自分で みんなで】** ・2 つの折れ線グラフの目盛りの取り方と傾きの関係を調べる。 ・目盛りに波線を用いた折れ線グラフの表し方を知る。	知②：発言・ノート 思①：観察・発言
6	○折れ線グラフと棒グラフの変化のようすからその関係や傾向を考え、折れ線グラフ棒グラフをあわせたグラフをよみとることができる。	・折れ線グラフと棒グラフをあわせたグラフをよみ、わかったことを発表する。	知③：発言・ノート 思③：発言・ノート

2　折れ線グラフのかき方（p.55 ～ 56）　2 時間			
7	○折れ線グラフのかき方を理解し、グラフをかくことができる。	・折れ線グラフのかき方を知る。	知①：発言・ノート
8	○波線を用いた折れ線グラフのよさに気づき、変化のようすがわかりやすくなるように目盛りの大きさをきめ、折れ線グラフをかくことができる。	・身長の変わり方を目盛りに波線を用いて折れ線グラフをかく。	知②：発言・ノート 態②：観察・発言
3　整理のしかた（p.57 ～ 62）　4 時間			
9	○資料を分析するために、観点をきめてデータを分類整理し、表にまとめる方法を理解する。	・けが調べの資料について、観点をきめて分類整理する。	思②：観察・発言
10	○資料を分析するために、２つの観点から落ちや重なりがないように分類整理し、二次元の表にまとめることができる。	・けが調べの資料について、２つの観点から分類整理する。	知④：発言・ノート 態②：観察・発言
11	○資料を分類整理するときに、よりよい表現や結論の出し方を考えようとし、調べる目的に応じて分類の観点や項目の立て方を考えることができる。	・図書館の利用調べの資料について、２つの観点から分類整理する。	知⑤：ノート 思②：観察・発言 態②：観察・発言
12	○統計的な問題解決のよさに気づき、生活や学習に活用しようとし、適切な表やグラフを選択してデータの特徴や傾向を考えることができる。	**【使ってみよう】** ・身の回りで調べたいことについて、表やグラフに表す。 ・２つの気温の変化を表すグラフを比べて、判断したことを考察し、より適切なグラフにつくりかえて考察する。	思③：観察・発言 態①②③：観察・発言
学習をたしかに（p.63 ～ 64）　1 時間			
13	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「折れ線グラフと表」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①～⑤：ノート 思①～③：ノート 態①～③：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.150）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

4　角と角度〔角の大きさをはかろう〕　（上 p.65 ～ 76）

6 月上旬～ 6 月中旬［8 時間］

【単元の目標】

（1）角の単位「度（°）」を理解し、分度器を用いて角の大きさをはかったり、角をかいたりすることができる。
（2）図形としての角の大きさに着目して、角の大きさを柔軟に表したり、三角形などの図形を考察したりすることができる。
（3）身の回りからいろいろな角を見つけ出し、角の大きさを調べたり、比較したりしようとして、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①角の大きさを回転の大きさとしてとらえ、その単位（度（°））について知り、測定の意味について理解している。 ②角が 90° や 180° より大きいか小さいかを判断するなどして、分度器を用いて角の大きさを測定したり、必要な大きさの角をつくったりすることができる。	①角の大きさを加法的に見たり乗法的に見たりするなど、柔軟に考えている。 ②角の大きさを根拠にして図形を判断したり、それを表現したりするなどして図形を考察している。	①角の大きさの学習を生かし、身の回りにある図形を角の大きさに着目してとらえようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.65）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　回転の角（p.67）　1 時間			
1	○単元アプローチ（p.66） ・円と正方形を重ねて、いろいろな大きさの角をつくる。		知①：発言・ノート 思①：観察・発言
	○既習の量（長さやかさ）と同じように、直角を単位として角の大きさを考えることを通して、回転量としての角の意味を理解する。	・半直線が回転してできる角の大きさについて考える。 ・角の大きさを、直角を単位として表す。	
2　角の大きさのはかり方（p.68 ～ 72）　4 時間			
2	○角度を表す単位（ ° ）を知り、分度器の構造と目盛りのよみ方を理解するとともに、分度器を用いて角度をはかることができる。	・分度器の構造を調べる。 ・角度を表す単位（ ° ）を知る。 ・分度器を用いた角のはかり方をまとめる。	知①：発言・ノート
3	○角の大きさを加法的に見ることにより、半回転（180 ° ）より大きい角度のはかり方を考えたり、対頂角の大きさや求め方を調べたりすることができる。	・180° より大きい角度のはかり方を考える。 ・対頂角の大きさを比べる。	知②：観察・発言 思①：観察・発言
4	○三角定規の角の大きさについて理解するとともに、三角定規を組み合わせることによって、いろいろな角度をつくることができる。	・三角定規のそれぞれの角の大きさを調べる。 ・三角定規を組み合わせて、いろいろな角度をつくる。	知②：観察・ノート 思①：観察・発言
5	○身の回りのいろいろなところから角を見つけて、その角度をはかろうとする。	**【使ってみよう】** ・身の回りのいろいろな角度をはかる。	態①：観察
3　角のかき方（p.73 ～ 74）　2 時間			
6	○分度器を用いた角のかき方を理解するとともに、180° より大きい角のかき方を考察する。	・分度器を用いて角をかく。 ・角のかき方をまとめる。	知②：ノート
7	○１つの辺の長さとその両端の角の大きさがわかっている三角形のかき方を考え、三角形をかくことができる。	・角の大きさがわかっている三角形を作図する。 ・分度器を使った三角形のかき方をまとめる。	知②：ノート 思②：発言
学習をたしかに（p.75 ～ 76）　1 時間			
8	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「角と角度」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②：ノート 思①②：ノート 態①：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.151）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

5　およその数〔およその数で表そう〕　（上 p.77 ～ 88）

6 月中旬～ 6 月下旬［8 時間］

【単元の目標】

（1）四捨五入による概数の表し方や「以上・以下・未満」の意味を理解し、四捨五入して数を概数で表すことができる。
（2）日常の事象における場面に着目し、目的に応じた概数の表し方を考え、状況を判断することができる。
（3）概数が用いられる場面を知り、概数を用いるよさに気づき、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①概数が用いられる場合を知り、概数の必要性を理解している。 ②以上、以下、未満の用語とその意味について理解している。 ③四捨五入などについて知り、四捨五入などをして数を概数にすることができる。	①場面をとらえて判断し、目的に合った概数の処理の仕方を考えている。 ②日常生活で用いられている数が、概数で表された数かどうかを判断し、考察している。	①概数を用いると物事の判断や処理が容易になるなどのよさに気づき、目的に応じて自ら概数で事象を把握しようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.77）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　がい数（p.78 ～ 84）　5 時間			
1	○単元アプローチ（p.78） ・絵グラフに表すために、都道府県別の小学 4 年生の児童の数の表し方を考える。		思①：観察・発言 態①：観察・発言
2	○目的に合ったおよその数の表し方について考えるとともに､｢概数｣の意味と「約」を用いて表すことを理解する。	・およその数の表し方について考える。 ・「概数」の意味と「約」を用いて表すことを知る。	知①：ノート 思②：観察・発言
3	○数直線を手がかりに、「四捨五入」の意味と使い方を理解し、四捨五入して概数を求めることができる。	・四捨五入して概数に表す方法を調べる。 ・「四捨五入」の意味を理解する。	知③：発言・ノート
4	○上から○桁の概数にする四捨五入の表現方法を理解し、その方法で概数に表すことができる。	・「上から○けた」という概数の表し方を知る。	知③：発言・ノート
5	○概数で表された数の範囲について、最大値･最小値をもとに考えるとともに、「以上・以下・未満」の意味を知り、これらを用いて数の範囲を表すことができる。	・四捨五入して、ある概数になるときの数の範囲について調べる。 ・「以上・以下・未満」の意味を知り、これらを用いて数の範囲を表す。	知②：ノート 思①：発言・ノート
2　がい数の利用（p.85 ～ 86）　2 時間			
6	○資料に表された数を、概数を使って棒グラフに表す方法を考えることを通して、目的に合った概数の処理の仕方についての理解を深める。	・概数を利用した棒グラフのかき方を調べる。	思①：ノート 態①：観察・発言
7	○日常生活の中で使われている概数を見つけようとする。	**【使ってみよう】** ・身の回りで使われている概数を探す。	思②：観察・発言 態①：発言・ノート
学習をたしかに（p.87 ～ 88）　1 時間			
8	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「およその数」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②③：ノート 思①②：ノート 態①：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.152）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

6　小数〔小数のしくみを考えよう〕　（上 p.89 ～ 105）

6 月下旬～ 7 月中旬［13 時間］

【単元の目標】

（1）$\frac{1}{1000}$の位までの小数の表し方のしくみを理解し、小数をよんだり、かいたり、加法・減法の計算をしたりすることができる。

（2）数の表し方のしくみや数を構成する単位に着目し、小数の表し方のしくみ、数の相対的な大きさや計算の仕方を考え説明することができる。

（3）小数とその計算について、数学的に表現・処理したことを振り返り、十進位取り記数法のよさに気づき、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①$\frac{1}{10}$の位、$\frac{1}{100}$の位、$\frac{1}{1000}$の位と範囲が拡張された小数を知り、小数が整数と同じしくみで表されていることを知っている。 ② 1.26 を 0.1 が 126 個集まった数とみるなど、数の相対的な大きさから、小数をとらえることができる。 ③小数の加法及び減法についての理解を深めている。 ④$\frac{1}{100}$の位までの小数の加法及び減法の計算ができる。	①端数部分の大きさを小数で表すとき、0.1 の単位をつくったときの考えをもとに、0.01 や 0.001 の単位をつくることを考えている。 ②$\frac{1}{100}$の位までの小数の加法及び減法の計算の仕方を、整数の計算の仕方などと関連づけて考えている。 ③小数やその計算が日常生活に使えることに気づいている。	①小数の桁の範囲が拡張されても同じ十進位取り記数法のしくみで表されることを学んだことから、さらに小さい小数の位についても考えようとしている。 ②小数も、整数と同じように十進位取り記数法のしくみで表されているから同じように計算できるというよさに気づき、小数の計算の仕方を考えようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.89）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　小数（p.90 ～ 93）　3 時間			
1	○単元アプローチ（p.89） ・はいっているジュースのかさをＬの単位だけで表す方法を考える。		思①：発言 態①：観察・発言
2	○これまでに学習したことをもとに、0.1L より小さいかさの表し方を通して、$\frac{1}{100}$の位までの数の表し方を理解する。	・0.1 より小さい数（かさ）の表し方を考える。 ・$\frac{1}{100}$の位までの小数の表し方やよみ方を知る。	知①：発言・ノート 思①：観察・発言
3	○$\frac{1}{100}$の位までの数の表し方を考えたことをもとに、$\frac{1}{1000}$の位までの数の表し方を考え、その数の表し方を理解する。	・$\frac{1}{1000}$の位までの小数の表し方やよみ方を知る。 ・0.01 より小さい数（長さ、重さ）の表し方を考える。	知①：発言・ノート 思①：発言 態①：発言
2　小数のしくみ（p.94 ～ 98）　4 時間			
4	○ 1 、0.1、0.01、0.001 の相互関係や小数の加法的なしくみについて理解する。	・ 1 、0.1、0.01、0.001 の関係を調べる。 ・小数の加法的構造を調べる。	知①②：発言・ノート
5	○小数の乗法的なしくみについて理解する。	・小数の乗法的構造を調べる。	知②：ノート
6	○小数の大小比較の仕方を理解するとともに、小数が日常生活に使えることに気づく。	・数直線を用いて、小数の大小関係を比べる。 **【使ってみよう】** ・身の回りにある小数を探す。	知①：ノート 思③：発言・ノート
7	○位の変わり方に着目し、小数を 10 倍した数や$\frac{1}{10}$にした数について考えようとし、小数が整数と同じしくみで表されていることを理解する。	・0.48 を 10 倍した数や$\frac{1}{10}$にした数について調べる。	知①：ノート 態①：観察・発言
3　小数のたし算とひき算（p.99 ～ 103）　5 時間			
8	○これまでの計算の仕方をもとに、小数（第二位まで）の加法の仕方を考え説明するとともに、その計算が筆算でできる。	・1.82＋3.45 の計算の仕方を考える。 ・小数どうしの加法（$\frac{1}{100}$の位）の筆算による仕方をまとめる。	知③④：発言・ノート 思②：発言 態②：観察

9	○小数の加法で、答えの末位の０を処理したり、末位に０があると考えて計算したりすることができる。	・小数どうしの加法（$\frac{1}{100}$の位）の派生型の筆算による仕方を考える。 例　6.56＋0.84、4.17＋5.2	知③④：ノート
10	○これまでの計算の仕方をもとに、小数（第二位まで）の減法の仕方を考え説明するとともに、その計算が筆算でできる。	・3.45－1.82 の計算の仕方を考える。 ・小数どうしの減法（$\frac{1}{100}$の位）の筆算による仕方をまとめる。	知③④：発言・ノート 思②：発言 態②：観察
11	○小数の減法で、答えの末位の０を処理したり、末位に０があると考えて計算したりすることができる。	・小数どうしの減法（$\frac{1}{100}$の位）の派生型の筆算による仕方を考える。 例　3.92－1.52、8－3.54	知③④：ノート
12	○小数について、数を多面的な見方をすることによって、加法的、乗法的にとらえることができる。	・8.51 をいろいろな見方で表す。	知②：ノート
学習をたしかに（p.104 ～ 105）　1 時間			
13	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「小数」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①～④：ノート 思①②③：ノート 態①②：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.152）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

●　ふくしゅう　（上 p.106 ～ 108）

7 月中旬［1 時間］

時間	学習活動
1	○1＜見方・考え方をみがこう＞で、単元で培った数学的な見方・考え方を振り返る。 ○2以降で、１学期の学習内容の理解を確認する。 ＊時間内で扱えない問題は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に取り組ませる。

7　わり算（２）〔わり算の筆算のしかたをさらに考えよう〕　（上 p.109 ～ 125）

9 月上旬～ 9 月中旬［11 時間］

【単元の目標】

（1）（2、3 位数）÷（2 位数）の計算の仕方を理解し、筆算で計算ができる。

（2）既習の除法の計算の仕方をもとに、（2、3 位数）÷（2 位数）の計算の仕方を図や式、ことばなどで考え説明することができる。

（3）これまでに学習した基本的な計算の仕方を活用し、（2、3 位数）÷（2 位数）の計算をよりよい方法で解決することのよさを感じ、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①除数が 2 位数で被除数が 2 位数や 3 位数の場合の除法の計算が、基本的な計算をもとにしてできることを理解している。 ②除数が 2 位数で被除数が 2 位数や 3 位数の場合の除法の筆算の仕方について理解している。 ③除数が 2 位数で被除数が 2 位数や 3 位数の場合の除法の計算が確実にできる。 ④除法に関して成り立つ性質について理解している。	①除数が 2 位数で被除数が 2 位数や 3 位数の場合の除法の計算の仕方を考えている。 ②除法に関して成り立つ性質を見いだし、その性質を活用して計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりしている。	①（何十）÷（何十）の計算を十を単位として考えれば一位数の計算として求められるというよさに気づいている。 ②除法に関して成り立つ性質を活用して、くふうして計算しようとしている。 ③暗算を、筆算や見積りに生かし、主体的に計算の仕方を考えようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.109）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　何十でわる計算（p.110～112）　2時間			
1	○単元アプローチ（p.110） ・これまでに学習した計算の仕方を振り返ることで、除法の計算を確かめる。		知①：ノート
2	○10を単位とした考え方のよさに気づき、何十でわる計算の仕方を考え、その計算ができる。	・何十でわる計算（あまりなし）の仕方を考える。 例　80÷20、120÷40 ・何十でわる計算（あまりあり）の仕方を考える。　例　140÷30 ・「わる数×商＋あまり＝わられる数」の関係を確かめる。	知①：ノート 思①：発言・ノート 態①：観察・発言
2　2けたの数でわる計算（1）（p.113～117）　4時間			
3	○何十でわる計算の考えを生かして、商の見当をつけるとともに、仮商修正のない（2位数）÷（2位数）の筆算の仕方を考え、筆算で計算ができる。	・65÷21（仮商修正なし）の計算の仕方を考え、筆算による仕方をまとめる。	知①②：ノート 思①：発言・ノート 態③：発言
4	○仮商修正のある（2位数）÷（2位数）の筆算の仕方を考え、筆算で計算ができる。	・89÷28（仮商修正1回）の筆算の仕方を考える。 ・71÷12（仮商修正2回）の筆算の仕方を考える。	知②③：ノート 思①：発言・ノート 態③：発言
5	○何十でわる計算の考えを生かして、商の見当をつけるとともに、仮商修正のある（3位数）÷（2位数）の筆算の仕方を考え、筆算で計算ができる。	・143÷23（仮商修正あり）の筆算の仕方を考える。 ・436÷48（仮商9）の筆算の仕方を考える。	知①②：ノート 思①：観察・発言 態③：発言
6	○（2位数）÷（2位数）（四捨五入による仮商修正）の筆算の仕方を考え、筆算で計算ができる。	・73÷17（四捨五入による仮商修正）の筆算の仕方を考える。	知②③：ノート 思①：発言・ノート 態③：発言
3　2けたの数でわる計算（2）（p.118～120）　2時間			
7	○（3位数）÷（2位数）＝（2位数）の筆算の仕方をこれまでの計算の仕方をもとに考え、筆算で計算ができる。	・368÷24（商が2位数）の筆算の仕方を考える。	知①②：ノート 思①：観察・発言 態③：発言
8	○（3位数）÷（2位数）＝（2位数）で、商の一の位が0になる場合の筆算の仕方を理解し、筆算で計算ができる。	・（3位数）÷（2位数）＝（2位数）[商の一の位が0の場合]の筆算の仕方を考える。 例　860÷43、743÷24	知②③：ノート
4　わり算のきまり（p.121～123）　2時間			
9	○被除数、除数に同じ数をかけたり、わったりして計算しても、商が変わらないという除法の性質を見いだし、その性質を活用して、工夫して計算しようとする。	・商が等しいわり算の式を見て、除法について成り立つ性質について調べる。	知④：ノート 思②：発言・ノート 態②：観察・発言
10	○末尾に0がある数の除法の簡単な筆算の仕方を既習の除法の計算の仕方をもとに考え説明しようとする。	・4800÷600、2500÷200の筆算の仕方を考え、簡単な方法を説明する。	思②：発言・ノート 態②：発言・ノート
学習をたしかに（p.124～125）　1時間			
11	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「わり算（2）」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習をふり返る。		知①～④：ノート 思①②：ノート 態①～③：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.153）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

8　倍の見方〔倍で大きさをくらべよう〕　（上 p.126 ～ 132）

9 月下旬［5 時間］

【単元の目標】

（1）簡単な場合について、ある 2 つの数量の関係と別の 2 つの数量の関係とを比べるときに倍（割合）を用いる場合があることについて理解する。
（2）簡単な場合について、ある 2 つの数量の関係と別の 2 つの数量の関係の比べ方を考え説明することができる。
（3）簡単な場合について、ある 2 つの数量の関係と別の 2 つの数量の関係の比べ方を判断し、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①倍が整数で表されている場合、比べる量やもとにする量を求めることができる。 ②簡単な場合について、ある 2 つの数量の関係と別の 2 つの数量の関係とを比べる場合に、割合を用いて比べられることを知り、割合を用いて比べることができる。	①倍が整数で表されている場合の数量の関係を、テープ図などをもとに考え、表現することができる。 ②簡単な場合について、日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある 2 つの数量の関係と別の 2 つの数量の関係との比べ方を考察し、場面にあった比べ方を判断している。	①簡単な場合について、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を、場面に即して判断したり、生活や学習に活用したりしようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
1　倍の計算（p.126 ～ 129）　3 時間			
1	○倍が整数で表される場合、図をもとにして数量の関係をとらえ、倍の意味の理解を深める。	・「もとにする量」と「比べる量」から何倍かにあたる量を求める。 ・ザトウクジラの体重を 1 とみたとき、シロナガスクジラの体重の表し方を知る。	思①：観察・発言
2	○倍が整数で表されている場合、図をもとにして数量の関係をとらえ、比べる量を求めることができる。	・「もとにする量」と倍を表す数から「比べる量」を求める。	知①：ノート 思①：発言・ノート
3	○倍が整数で表されている場合、図をもとにして数量の関係をとらえ、もとにする量を求めることができる。	・「比べる量」と倍を表す数から「もとにする量」を求める。	知①：ノート 思①：発言・ノート
2　かんたんな割合（p.130 ～ 132）　2 時間			
4・5	○倍が整数で表される場合、ある 2 つの数量の関係と別の 2 つの数量の関係とを比べるときに、図や式などをもとに数量の関係をとらえ、倍（割合）を用いて比べることができ、生活に活用しようとする。	・長さの異なる 2 種類のゴムについて、どちらがよくのびるかを考える。	知②：ノート 思②：観察・発言 態①：観察・発言

●　どんな計算になるか考えよう　（上 p.133）

9 月下旬［1 時間］

時間	学習活動
1	○問題文を読み、どのような計算で求められるかを考えて解決する。（倍の場面の演算決定） ＊時間内で扱えない問題は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に取り組ませる。

9　そろばん〔そろばんで計算しよう〕　（上 p.134 ～ 136）

9 月下旬～ 10 月上旬［ 2 時間］

【単元の目標】

（1）そろばんを用いて大きい数や小数を表したり、その加法・減法の計算をしたりすることができる。
（2）そろばんを用いて、整数や小数の加法・減法の計算の仕方を考えることができる。
（3）そろばんのよさに気づき、大きい数や小数の計算の仕方を考えようとする。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①そろばんを用いて、簡単な億や兆の単位までの整数や$\frac{1}{100}$の位までの小数の加法及び減法の計算をしている。	①そろばんのしくみに着目し、そろばんを用いた大きい数や小数の計算の仕方を考えている。	①そろばんによる簡単な計算の仕方を振り返り、そろばんのしくみやよさに気づき、大きい数や小数の計算の仕方を考えようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
1　数の表し方（p.134 ～ 135）　1 時間			
1	○そろばんを使った整数（大きい数）や小数の表し方を考え、その方法を理解する。	・そろばんを使った整数（大きい数）や小数の表し方を知る。	知①：ノート 態①：観察・発言
2　たし算とひき算（p.136）　1 時間			
2	○そろばんを使って、億や兆の単位で示された加減や、小数の加減の計算の仕方を考え、その計算ができる。	・そろばんを使って、億や兆の単位で示された加減や、小数 3 の加減計算を行う。	知①：ノート 思①：観察・発言 態①：観察・発言

10　四角形〔いろいろな四角形を調べよう〕　（下 p.5 ～ 26）

10 月上旬～ 10 月下旬［15 時間］

【単元の目標】

（1）直線の垂直や平行の関係の意味や性質、台形、平行四辺形、ひし形の意味や性質を理解し、コンパスや三角定規を使って、垂直や平行な直線、台形、平行四辺形、ひし形をかくことができる。

（2）辺の位置関係や構成要素に着目し、直線の垂直や平行の関係を見いだし、四角形をそのちがいを整理して考えて特徴をとらえることができる。

（3）身の回りから、直線の垂直や平行の関係、台形、平行四辺形、ひし形の形を見つけ考察しようとし、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①直線の平行や垂直の関係について理解し、平行な二直線や垂直な二直線をかくことができる。 ②平行四辺形、ひし形、台形の意味や性質、対角線について知り、平行四辺形、ひし形、台形をかくことができる。	①図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を考察して図形（平行四辺形、ひし形、台形）の性質を見いだしている。 ②四角形（平行四辺形、ひし形、台形）について、かき方を考えている。 ③見いだした図形の性質をもとに、既習の図形（正方形、長方形）をとらえなおしている。	①身の回りから平行や垂直になっている二直線や平行四辺形、ひし形、台形を見つけ、どのような性質を活用しているかを考え、そのよさに気づいている。 ②平行四辺形、ひし形、台形で平面に敷きつめる活動を通して、これらの図形が平面を敷きつめることができるというよさやできた模様の美しさに気づいている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.5）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　直線の交わり方（p.6 ～ 9）　3 時間			
1	○単元アプローチ（p.6） ・写真を見て、道がいろいろな交わり方をしていることを知る。 ・地図に道をかき、どんな交わり方をしているかに興味を持つ。		態①：観察・発言
2	○直線の位置関係に着目し、２本の直線の交わり方について考え、垂直の意味を理解するとともに、垂直の関係を弁別することができる。	・２本の直線の交わり方を調べる。 ・垂直の意味を知る。 ・垂直の意味を理解し、２本の直線が垂直かどうかを弁別する。	知①：観察・ノート 思①：観察・発言
3	○垂直な直線の定義をもとに、三角定規を使って、垂直な直線をかくことができる。	・垂直な直線をかく。 ・垂直な直線のかき方をまとめる。	知①：ノート
2　直線のならび方（p.10 ～ 14）　4 時間			
4	○直線の位置関係に着目し、２本の直線の並び方について考え、平行の意味を理解するとともに、平行の関係を弁別することができる。	・２本の直線の並び方を調べる。 ・平行の意味を知る。 ・平行の意味を理解し、２本の直線が平行かどうかを弁別する。	知①：観察・ノート
5	○平行な直線について、幅はどこも等しいということや、平行な直線に１本の直線が交わるとき、同じ側にできる角（同位角）は等しいという性質を考えることができる。	・平行な直線の幅を調べる。 ・平行な直線と交わる直線でできる角度を調べる。	思①：発言・ノート
6	○平行な直線の定義をもとに、三角定規を使って、平行な直線をかくことができる。	・平行な直線をかく。 ・平行な直線のかき方をまとめる。	知①：ノート
7	○方眼を使って、垂直や平行な直線をかくことができるとともに、身の回りから、垂直・平行になっているものを探そうとする。	・方眼を使って、垂直や平行な直線をかく。 **【使ってみよう】** ・身の回りから、垂直・平行になっているものを探す。	知①：発言・ノート 態①：観察・ノート

3　いろいろな四角形（p.15 ～ 20）　5 時間			
8	○いろいろな四角形を辺の平行関係に着目し考察することを通して、台形、平行四辺形の意味を理解する。	・P.169 の紙を重ねていろいろな四角形をつくる。 ・台形と平行四辺形の意味を知る。	知②：発言・ノート
9	○辺の長さや角の大きさを調べることを通して、平行四辺形の性質を理解する。	・平行四辺形の辺の長さや角の大きさを調べる。	知②：発言・ノート 思①：観察・ノート
10	○平行四辺形の定義や性質をもとに、平行四辺形を作図することができる。	・平行四辺形の作図の仕方を考える。	知②：ノート 思②：発言・ノート
11	○辺の長さや角の大きさを調べることを通して、ひし形の意味や性質を理解する。	・ひし形の意味を知る。 ・ひし形の性質を調べる。	知②：ノート 思①：発言・ノート
12	○ひし形の定義や性質をもとに、ひし形を作図することができる。	・ひし形の作図の仕方を考える。	知②：ノート 思②：発言・ノート
4　対角線（p.21 ～ 24）　2 時間			
13	○対角線の意味を知るとともに、いろいろな四角形の対角線の性質を考えることができる。	・対角線の意味を知る。 ・いろいろな四角形の対角線に関する性質についてまとめる。	知②：発言・ノート 思③：発言・ノート
14	○身の回りから四角形の形をしたものを見つけようとしたり、同じ形や大きさの四角形を敷きつめたりする活動を通して、図形の美しさ、不思議さを感じ取ったりしようとする。	**【使ってみよう】** ・身の回りから、四角形の形をしたものを探す。 ・平行四辺形や台形、ひし形、四角形を使って敷きつめ模様づくりをする。	態①②：観察・発言
学習をたしかに（p.25 ～ 26）　1 時間			
15	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「四角形」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②：ノート 思①②③：ノート 態①②：ノート
※	○「ぐっとチャレンジ」（p.150）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

11　式と計算〔計算のきまりを調べよう〕　（下 p.27 ～ 38）

10 月下旬～ 11 月上旬［ 8 時間］

【単元の目標】

（1）四則の混合した式の計算や（　）を使った式の計算の順序、計算のきまり（交換法則、結合法則、分配法則）を理解し、その計算や計算の順序、計算のきまりを用いて、計算方法をくふうすることができる。

（2）数量の関係に着目し、四則の混合した式や（　）を使った式に表された問題場面をとらえ、四則の混合した式や（　）を使った式の意味、計算の仕方を考え、説明することができる。

（3）四則の混合した式や（　）を使った式、計算のきまりを使って計算方法をくふうすることのよさを感じ、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①１つの数量を表すのに（　）を用いることや乗法、除法を用いて表された式が１つの数量を表すことなどを理解している。 ②乗法、除法を加法、減法より先に計算することや（　）の中を先に計算することなどのきまりがあることを理解している。 ③数量の関係を式で簡潔に表したり、式をよみとったりすることができる。 ④四則の混合した式や（　）を用いた式について正しく計算することができる。 ⑤□、△などの記号を用いて、交換法則、結合法則、分配法則を一般的な式に表すことができる。 ⑥□、△などを用いた式では、「同じ記号には同じ数がはいる」ことを理解している。	①式の意味をよみ、具体的な場面や思考の道筋を考えている。 ②交換法則、結合法則、分配法則を用いて計算を簡単に行うことを考えている。	①式のよさに気づき、式の意味をよみとろうとしている。 ②整数の計算に関して成り立つ性質を用いると計算を簡単にすることができる場合があることなど、計算に関して成り立つ性質のよさに気づき、くふうして計算しようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.27）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　（　）を使った式（p.28 ～ 31）　2 時間			
1	○単元アプローチ（p.28） ・500 円玉を持って買い物に行く場面で、それぞれ場面を式に表す。		知①②：ノート 思①：発言・ノート
	○数量の関係に着目し、問題場面の道筋をとらえることによって、問題場面を１つの式に表すことができるとともに、（　）内先行の計算の順序を理解する。	・２段階構造の問題 [加減] を１つの式に表す方法を考える。 例　500－(150＋80) ・（　）のある式の計算順序をまとめる。	
2	○数量の関係に着目し、加減法と乗法、加減法と除法の問題場面の道筋をとらえることによって、問題場面を１つの式に表すことができるとともに、四則混合の（　）を使った式の計算順序を理解する。	・２段階構造の問題 [加減乗除] を１つの式に表す方法を考える。 例　120×(5＋3)	知①②：ノート 思①：発言・ノート

2　＋、－、×、÷のまじった式（p.32～33）　2時間			
3	○数量の関係に着目し、四則混合の２段階構造の問題場面の道筋をとらえることによって、問題場面を１つの式に表すことができるとともに、乗除先行の計算順序を理解する。	・加減と乗除の２段階構造の問題を１つの式に表し、計算順序を考える。 例　500－(120×3)　85＋(600÷2) ・加減乗除のまじった式の計算順序をまとめる。	知②④：ノート 思①：発言・ノート
4	○四則混合の３段階構造の式の計算順序を理解し、正しく計算することができる。	・四則混合の３段階構造の式の計算順序を考える。 例　8×6－4÷2 8×(6－4)÷2 8×(6－4÷2) ・計算の順序をまとめる。	知②④：ノート
3　計算のきまり（p.34～35）　2時間			
5	○整数の計算について分配法則が成り立つことを理解し、この性質を用いると計算を簡単にできる場合があることに気づく。	・整数の加減、乗法について分配法則が成り立つことを確かめる。	知⑤⑥：ノート 思②：発言・ノート 態②：発言・ノート
6	○整数の計算について乗法の交換法則、結合法則が成り立つことを理解し、これらの性質を用いると計算を簡単にできる場合があることに気づく。	・整数の加減、乗法について交換法則・結合法則が成り立つことを確かめる。 ・小数についても加法の交換法則・結合法則が成り立つことを確かめる。	知⑤⑥：ノート 思②：発言・ノート 態②：発言・ノート
4　式の表し方とよみ方（p.36）　1時間			
7	○ドットの数について、式と図を使って考えようとし、その求め方を説明することができる。	・ドットの数をくふうして、１つの式にして求める。	知③：発言・ノート 思①：発言・ノート 態①：発言・ノート
学習をたしかに（p.37～38）　1時間			
8	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「式と計算」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①～⑥：ノート 思①②：ノート 態①②：ノート
※	○「ぐっとチャレンジ」（p.151）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

12　面積〔広さを表そう〕　（下 p.39～58）

11月上旬～11月下旬［14時間］

【単元の目標】

（1）面積の単位（cm^2、m^2、km^2、a、ha）の意味やその相互関係、長方形、正方形の面積が公式によって計算で求められることを理解し、求積公式を利用し、いろいろな形の面積を求めることができる。
（2）面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を考えているとともに、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察することができる。
（3）面積を数値化して表すことのよさに気づき、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①面積の単位（平方センチメートル（cm^2）、平方メートル（m^2）、平方キロメートル（km^2）、アール（a）、ヘクタール（ha））について知り、測定の意味について理解している。 ②必要な部分の長さを用いることで、正方形や長方形の面積は計算によって求めることができることを理解している。 ③正方形や長方形の面積を公式を用いて求めることができる。	①面積の単位や図形を構成する要素に着目し、正方形及び長方形の面積の計算による求め方を考えている。 ②長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を、図形の構成の仕方に着目して考えている。 ③面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察している。	①面積の大きさを数値化して表すことのよさに気づき、面積を調べる際に活用しようとしている。 ②長方形の組み合わせた図形の面積の求め方について、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.39）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　広さの表し方（p.40 ～ 43）　3 時間			
1・2	○単元アプローチ（p.40） ・まわりの長さが同じ花壇の広さを比べる。		態①：観察・発言
	○単位のいくつ分の考えを使って、広さを比べる方法を考えようとする。	・じんとりゲームをして、広さをいろいろな方法で比べる。	
3	○広さも共通な単位で表せばよいことに気づき、面積の意味や面積の単位「cm^2」を知り、正しく使うことができる。	・長方形と正方形の広さを比べる。 ・面積の意味、面積を表す単位「cm^2」を知る。	知①：発言・ノート 態①：観察・発言
2　長方形と正方形の面積（p.44 ～ 46）　2 時間			
4	○図形の構成要素に着目し、長方形、正方形の計算による面積の求め方を考えるとともに、公式の意味を理解する。	・長方形、正方形の面積を計算で求める方法を考える。 ・長方形、正方形の面積を求める公式をまとめる。	知②③：ノート 思①：観察・発言 態①：観察・発言
5	○長方形の辺の長さと面積の関係を理解し、長方形の面積を求める公式への理解を深める。	・求積公式を使って、長方形の辺の長さを求める。 ・長方形の辺の長さと面積の関係を調べる。	知②③：ノート
3　面積の求め方のくふう（p.47 ～ 49）　1 時間			
6	○図形の構成の仕方に着目し、長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を多面的にとらえて考えることによって、その面積を求めることができる。	**【自分で みんなで】** ・長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を考える。 ・面積の求め方を発表し、話し合う。	知②③：発言・ノート 思②：発言・ノート 態②：発言・ノート
4　大きな面積の単位（p.50 ～ 56）　7 時間			
7	○面積の単位「m^2」を知り、面積を表すことができる。	・面積を表す単位「m^2」を知る。	知①：ノート
8	○ m^2と cm^2の単位の相互関係を考え、$1\,m^2 = 10000\,cm^2$であることを理解するとともに、辺の長さの単位が異なる長方形の面積を求めることができる。	・$1\,m^2$が何 cm^2かを考える。 ・$1\,m^2 = 10000\,cm^2$ ・辺の長さが cm と m で表された長方形の面積を求める。	知③：ノート 思③：観察・発言
9	○$1\,m^2$の量感を体感的に感じ取ろうとする。	**【使ってみよう】** ・新聞紙で$1\,m^2$をつくる。	態①：観察
10	○面積の単位「km^2」を知り、km^2と m^2の相互関係を考えることができる。	・面積を表す単位「km^2」を知る。	知①：ノート 思③：発言・ノート
11	○面積の単位「a」「ha」を知り、面積を表すことができるとともに、a や ha と m^2の単位の相互関係を考えることができる。	・面積を表す単位「a」を知る。 ・$1\,a = 100\,m^2$ ・面積を表す単位「ha」を知る。 ・$1\,ha = 10000\,m^2$	知①：ノート 思③：発言・ノート
12	○長さの単位から面積の単位がつくられるしくみや単位間の関係を考察するとともに、面積の単位とそのしくみの理解を深める。	・面積の単位とそのしくみを調べる。 ・長さの単位の関係とのちがいを話し合う。	思③：発言・ノート
13	○身の回りのものの面積に関心を持ち、面積を求めようとする。	**【使ってみよう】** ・身の回りにあるものの面積を調べる。	態①：観察・発言
学習をたしかに（p.57 ～ 58）　1 時間			
14	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「面積」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②③：ノート 思①②③：ノート 態①②：ノート
※	○「ぐっとチャレンジ」（p.152）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

13　分数〔分数のしくみを考えよう〕　（下 p.59 ～ 72）

11 月下旬～ 12 月上旬［10 時間］

【単元の目標】

（1）分数の意味や表し方、同分母分数の加減の計算の仕方を理解し、数直線を使って、大きさの等しい分数を見つけたり、同分母分数の加減の計算をしたりすることができる。

（2）数を構成する単位に着目し、大きさの等しい分数を探したり、分数の表し方や計算の仕方を、単位分数をもとにしたり、図や式と関連させたりして考えることができる。

（3）身の回りの数量を分数で表すことに関心を持ち、分数の意味や表し方について考え、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①数直線に示された分数を観察し、表し方が違っても大きさの等しい分数があることに気づき、見つけることができる。 ②数直線や図を用いて、分数の大きさを表すことができる。 ③真分数、仮分数、帯分数の意味について理解している。 ④1より大きい分数を仮分数でも帯分数でも表すことができる。 ⑤同分母分数の加法及び減法の計算ができる。	①分数の大きさを、数直線や図などで表したり、分数が表された数直線や図をよみとったりして、分数の大きさについて判断したり表現したりしている。 ②同分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を、日常における場面や単位分数の個数に着目して考えている。	①1より小さい分数の意味をもとにして、1より大きい分数の意味や、同分母の分数の加法及び減法の計算の仕方について考えようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.59）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　いろいろな分数（p.60 ～ 65）　5 時間			
1	○単元アプローチ（p.60） ・これまでの分数の学習を振り返る。		態①：観察・発言
2	○単位分数のいくつ分とみることによって、1より大きい分数の大きさと表し方を考え、表すことができる。	・1より大きい分数の表し方を考える。	知②：ノート 思①：発言・ノート 態①：観察・発言
3	○分母が同じ分数について、1との大小関係を数直線などをもとに考察することによって仲間分けし、真分数、仮分数、帯分数の意味を理解する。	・数直線を使って、分数を分類する。 ・真分数や仮分数、帯分数の意味を知る。	知②③：ノート 思①：観察・発言
4	○数直線や図などをもとに、帯分数と仮分数の相互関係について理解する。	・仮分数と帯分数の相互関係を考える。 ・整数と同値の仮分数の関係を調べる。	知④：ノート 思①：発言・ノート
5	○分数の表し方をそろえることによって、分数の大小比較ができる。	・仮分数と帯分数の大小比較をする。	知④：発言・ノート 思①：観察・発言
2　分数の大きさ（p.66 ～ 67）　1 時間			
6	○数直線をよみ取ることによって、等しい分数を見つけ、分数の大小、相等関係について理解する。	・大きさの等しい分数を見つける。 ・数直線上に表された分数の大きさを比べる。	知①：発言・ノート 思①：観察・発言
3　分数のたし算とひき算（p.68 ～ 70）　3 時間			
7	○単位分数の個数をもとに、和が仮分数になる場合の同分母分数（真分数）の加法や同分母分数（仮分数－真分数）の減法の仕方を考え、その計算ができる。	・（真分数）＋（真分数）＝（仮分数）の計算の仕方を考える。 例　$\frac{4}{5}+\frac{3}{5}$ ・（仮分数）－（真分数）＝（真分数）の計算の仕方を考える。 例　$\frac{7}{5}-\frac{3}{5}$	知⑤：発言・ノート 思②：発言・ノート

8	○これまで学習した計算の仕方をもとに、帯分数を含んだ同分母分数のたし算の仕方を考え、その計算ができる。	・帯分数を含んだ同分母分数のたし算の仕方を考える。 例　$2\frac{1}{5}+1\frac{3}{5}$、$2\frac{3}{7}+\frac{6}{7}$	知⑤：発言・ノート 思②：発言・ノート 態①：発言
9	○これまで学習した計算の仕方をもとに、帯分数を含んだ同分母分数のひき算の仕方を考え、その計算ができる。	・帯分数を含んだ同分母分数のひき算の仕方を考える。 例　$2\frac{4}{5}-1\frac{1}{5}$、$2\frac{2}{7}-\frac{3}{7}$	知⑤：発言・ノート 思②：発言・ノート 態①：発言
学習をたしかに（p.71 ～ 72）　1 時間			
10	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「分数」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①～⑤：ノート 思①②：ノート 態①：ノート
※	○「ぐっとチャレンジ」（p.153）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		
※	「なるほど算数」（p.73）で分数を使って時間を表すことについて確認する。		

●　ふくしゅう　（下 p.74 ～ 76）

12 月中旬［1 時間］

時間	学習活動
1	○1＜見方・考え方をみがこう＞で、単元で培った数学的な見方・考え方を振り返る。 ○2以降で、２学期の学習内容の理解を確認する。 ＊時間内で扱えない問題は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に取り組ませる。

14　変わり方〔どのように変わるか調べよう〕　（下 p.77 ～ 87）

1 月中旬［4 時間］

【単元の目標】

（1）伴って変わる２つの数量の関係を表や□、△などを用いた式に表す仕方を理解し、□、△などを用いた式に表すことができる。

（2）問題場面の数量の関係に着目し、伴って変わる２つの数量の関係を表す方法を考え、関係を整理して、きまりを見いだすことができる。

（3）数量の関係を表す式について、式や公式のよさに気づき、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①伴って変わる２つの数量の関係を表に表すことができる。 ②伴って変わる２つの数量の関係を式で簡潔に表したり、式をよみ取ったりすることができる。 ③□、△などを用いて関係を式にしたり、□、△などに数をあてはめて調べたりすることができる。 ④□、△を用いた式において、□、△は変量を表すこと、□、△の一方の大きさが決まれば、それに伴って、他方の大きさが決まることを理解している。	①伴って変わる２つの数量の関係を表した表を使って、変化や対応の特徴を考察している。 ②数量と数量の間の関係を考える際に、いくつもの数量の組を使って、共通するきまりや関係を考え、見いだしている。 ③式の意味をよみ、具体的な場面や思考の道筋を考えている。	①身の回りから、伴って変わる２つの数量の関係を見つけようとしている。 ②式のよさに気づき、数量の関係を簡潔に表現したり、式の意味をよみ取ろうとしたりしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.77）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	○単元アプローチ（p.78） ・身の回りにある２つの数量の変わり方を調べる。		知①～④：ノート 思①②：観察・発言 態①：観察・発言
	○問題場面の数量の関係に着目し、和一定の２つの数量の関係を表にまとめ、表を観察して２つの数量の対応のきまりや変わり方を調べるとともに、２つの数量の関係を□、△を使った式に表し、あてはまる数を見つけることができる。	・まわりの長さが20cmの長方形や正方形の縦と横の長さを調べ、伴って変わる２量の関係（和一定）を、表や□、△などを使った式に表す。	
2	○問題場面の数量の関係に着目し、差一定の２つの数量の関係を表にまとめ、表を観察して２つの数量の対応のきまりや変わり方を調べるとともに、２つの数量の関係を□、△を使った式に表し、あてはまる数を見つけることができる。	・正三角形を横に並べたときの正三角形の数とまわりの長さを調べ、伴って変わる２量の関係（差一定）を、表や□、△などを使った式に表す。	知①～④：ノート 思①～③：観察・発言 態②：観察・発言
3	○問題場面の数量の関係に着目し、変化する値が一定の２つの数量の関係を表にまとめ、表を観察して２つの数量の対応のきまりや変わり方を調べるとともに、２つの数量の関係を□、△を使った式に表し、あてはまる数を見つけることができる。	**【自分で みんなで】** ・正方形を階段のように並べたときの段の数とまわりの長さを調べ、伴って変わる２量の関係（一方を１ずつ増やすと他方も決まった数になる）を、表や□、△などを使った式に表す。	知①～④：発言・ノート 思①～③：観察・発言 態②：観察・発言
学習をたしかに（p.86～87）　１時間			
4	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「変わり方」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①～④：ノート 思①～③：ノート 態①②：ノート
※	○「ぐっとチャレンジ」（p.154）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

15　計算の見積もり〔がい数で計算しよう〕　（下 p.88～92）

１月中旬［３時間］

【単元の目標】

（１）目的に応じた概算の仕方を理解し、計算の結果をおよその大きさでとらえることができる。
（２）場面をとらえて判断し、目的にあった概数の処理の仕方を考えることができる。
（３）概数を用いると物事の判断や処理が簡単になるなどのよさに気づき、目的に応じて計算の結果を見積もろうとし、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①目的に応じた概算の仕方を理解し、和、差、積、商を概数で見積もることができる。	①場面をとらえて判断し、目的にあった概数の処理の仕方を考え、説明することができる。	①概数を用いると物事の判断や処理が容易になるなどのよさに気づき、目的に応じて自ら概数で事象を把握しようとしている。 ②生活や学習の場面で、目的に応じて計算の結果を見積もろうとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
1	○場面をとらえて見積もりをするときに、概数を用いて考えるとともに、目的にあった和や差の見積もりの仕方を理解する。	・水族館の入場者数について、概数を用いて和・差の見積もりをする。	知①：ノート 思①：観察・発言 態①：観察・発言

2	○身近な生活場面で場面をとらえて判断し、目的に応じて計算の結果を見積もろうとする。	【使ってみよう】 ・目的にあった方法で、買い物の代金を見積もる。	思①：観察・発言 態②：観察・発言
3	○場面をとらえて見積もりをするときに、概数を用いて考えるとともに、目的にあった積や商の見積もりの仕方を理解する。	・水族館の入館料について、概数を用いて積の見積もりをする。 ・水族館へ行くバス代について、概数を用いて商の見積もりをする。	知①：ノート 思①：観察・発言 態①：観察・発言

16　小数のかけ算とわり算〔小数のかけ算とわり算のしかたを考えよう〕　（下 p.93 ～ 112）

1 月下旬～ 2 月中旬［14 時間］

【単元の目標】

（1）（小数）×（整数）、（小数）÷（整数）、（整数）÷（整数）で商が小数になる場合の計算の意味やその仕方を理解し、筆算で計算ができる。

（2）数を構成する単位に着目し、（整数）×（整数）、（整数）÷（整数）の計算の仕方をもとに、（小数）×（整数）、（小数）÷（整数）の計算の仕方を考えることができる。

（3）（小数）×（整数）、（小数）÷（整数）の計算の仕方を、既習の整数の乗除計算と関連づけて考えようとし、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の意味について理解している。 ②乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算ができる。 ③整数を整数でわって商が小数になる除法について、商の意味を理解している。 ④２つの数量が整数の場合についても、倍を表す数が小数となる場合があることを理解している。	①乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算の仕方を、整数の計算の仕方と関連づけて考えている。 ②小数やその計算が日常生活に使えることに気づいている。 ③倍が小数で表されている場合の数量の関係を、テープ図や数直線などを用いて正しくとらえ、倍が整数の場合と同じように考えることができる。	①小数も、整数と同じように十進位取り記数法の仕組みで表されていることから同じように計算できるというよさに気づき、小数の計算の仕方を考えようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.93）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　小数に整数をかける計算（p.94 ～ 100）　5 時間			
1	○単元アプローチ（p.94） ・単位のいくつ分で考えたこれまでの計算を振り返る。		態①：発言・ノート
2	○（整数）×（整数）の計算の仕方をもとに、（小数）×（整数）の計算の仕方を考え説明し、その計算ができる。	・0.2×6 の計算の仕方を考える。	知①②：ノート 思①：発言・ノート
3	○これまでの整数の乗法の筆算の仕方をもとに、小数（小数第一位）に整数（１位数）をかける筆算の仕方を考え説明し、筆算で計算ができる。	・1.8×3 の計算の仕方を考える。 ・（小数）×（整数）の筆算による仕方をまとめる。	知②：ノート 思①：観察・発言 態①：観察・発言
4	○小数（小数第一位）に整数（２位数）をかける筆算の仕方を理解し、小数の乗法が日常生活に使えることに気づく。	・（小数）×（整数）の派生型の筆算による仕方を考える。 例　1.6×42、4.8×15	知②：発言・ノート 思②：発言・ノート
5	○小数（小数第二位）に整数（１位数）をかける筆算について、これまでの筆算の仕方をもとに考え、筆算で計算ができる。	・（小数）×（整数）の派生型の筆算による仕方を考える。 例　1.45×3	知②：ノート 思①：発言・ノート

2　小数を整数でわる計算（p.101 ～ 105）　3 時間			
6	○（整数）÷（整数）の計算の仕方をもとに、（小数）÷（整数）の計算の仕方を考え説明し、その計算ができる。	・1.2 ÷ 3 の計算の仕方を考える。	知①②：ノート 思①：観察・発言
7	○これまでの整数の除法の筆算の仕方をもとに、小数（小数第一位）を整数（1 位数）でわる筆算の仕方をこれまでの筆算の仕方をもとに考え説明し、筆算で計算ができる。	・7.2 ÷ 4 の計算の仕方を考える。 ・（小数）÷（整数）の筆算による仕方をまとめる。	知②：ノート 思①：観察・発言 態①：観察・発言
8	○小数（小数第一位、第二位）を整数（1、2 位数）でわる筆算について、これまでの筆算の仕方をもとに考え、筆算で計算ができる。	・（小数）÷（整数）の派生型の筆算による仕方を考える。 例　39.6 ÷ 11 ・6.3 ÷ 7（商が 1 より小さい場合）の筆算による仕方を考える。 ・7.56 ÷ 6 の筆算による仕方を考える。	知②：ノート 思①：発言・ノート
3　いろいろなわり算（p.106 ～ 108）　3 時間			
9	○小数を整数でわる計算で、あまりのある場合の計算の仕方やあまりの大きさについて考え説明するとともに、筆算で計算ができる。	・19.6 ÷ 3（あまりのある場合）の筆算による仕方を考える。	知②：発言・ノート 思①：発言・ノート
10	○小数や整数を整数でわる計算で、わり進む場合の筆算の仕方を考え説明し、筆算で計算ができるとともに、小数の乗法が日常生活に使えることに気づく。	・（小・整数）÷（整数）の筆算（わり進む場合）による仕方を考える。 例　5.4 ÷ 4	知②③：発言・ノート 思①②：発言・ノート
11	○整数を整数でわる計算で、四捨五入による商の処理がある場合について理解し、答えを求めることができる。	・5 ÷ 3 の計算で、商を四捨五入して求める場合の仕方を考える。	知③：発言・ノート
4　何倍かを表す小数（p.109 ～ 110）　2 時間			
12	○2 つの数量が整数の場合の関係について、倍を表す数が小数となることを理解し、倍が整数のときと同じように考えることができる。	・倍が小数でも表されることを知る。	知④：発言・ノート 思③：観察・発言
13	○テープ図や数直線をもとに、もとにする量が変わった場合の小数倍の関係を正しくとらえることができる。	・小数倍の関係について、もとにする量を変えて考える。	思③：発言・ノート
学習をたしかに（p.111 ～ 112）　1 時間			
14	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「小数のかけ算とわり算」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①～④：ノート 思①②③：ノート 態①：ノート
※	○「ぐっとチャレンジ」（p.154）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

17　直方体と立方体〔いろいろな箱の形を調べよう〕　（下 p.113 ～ 127）

2 月中旬～ 3 月上旬［10 時間］

【単元の目標】

（1）直方体、立方体の意味や性質を理解し、直方体や立方体の見取図や展開図をかいたり、平面や空間の位置を表したりすることができる。
（2）構成要素や位置関係に着目して、直方体や立方体の特徴や性質を考えることができる。
（3）直方体や立方体が、構成要素や位置関係について、どのような性質を活用しているかを振り返り、学習したことを生活や今後の学習に活用しようとする。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①立方体や直方体について知り、立方体や直方体の構成要素や、それらの位置関係について理解している。 ②立方体や直方体の見取図をかいたり、それらの見取図を見て、構成要素の垂直や平行の関係をよみとったりすることができる。 ③立方体や直方体の展開図をかき、構成することができる。 ④平面の上や空間の中にあるものの位置を表す際、平面の上の 2 つの要素が、空間の中では 3 つの要素が必要であることを理解している。 ⑤平面の上でのものの位置を 2 つの要素で表したり、空間の中でのものの位置を 3 つの要素で表したりすることができる。	①図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目して立体図形を仲間分けし、立方体や直方体の性質を考察している。 ②立方体や直方体を展開図として平面の上に表現する仕方を考察し、見いだした立体図形の性質や構成要素の位置関係などを根拠にして、展開図のそれぞれの面の位置や大きさについて表現している。 ③日常の事象を図形の性質を用いてとらえ直している。 ④平面の上や空間の中でのものの位置を表すには、基準を決めることや方向を表すことばや記号が必要であることに気づいている。 ⑤直線や平面の上でのものの位置の表し方から類推して、空間の中でのものの位置の表し方を考えている。	①日常生活で見いだされる立方体や直方体について、どのような性質を活用しているかを考え、そのよさに気づいている。 ②数を使うものの位置が簡潔に表されるよさに気づき、ホールや乗り物の座席など生活で使われている場面を調べるなど、生活や学習に生かそうとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.113）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　直方体と立方体（p.114 ～ 117）　2 時間			
1	○単元アプローチ（p.114 ～ 115） ・身の回りの箱を使って、形あてゲームをする。		知①：ノート 思①：観察・発言 態①：観察・ノート
	○図形の構成要素に着目して、身の回りの箱を仲間分けすることを通して、直方体、立方体の意味を理解する。	・箱の形について調べ、仲間分けをする。 ・直方体、立方体の意味を知る。	
2	○図形の構成要素に着目して、直方体、立方体の特徴や性質を考察し、理解する。	・直方体、立方体の頂点、辺、面の数や形について調べる。 ・平面の意味を知る。	知①：発言・ノート 思①：観察・発言
2　見取図と展開図（p.118 ～ 120）　2 時間			
3	○直方体や立方体の見取図をかくことができる。	・直方体や立方体の見取図をかく。	知②：発言・ノート
4	○直方体、立方体の性質に着目して、展開図について考えるとともに、それらの展開図をかくことができる。	・直方体、立方体の展開図をかき、それらの箱をつくる。	知③：発言・ノート 思②：観察・発言
3　辺や面の垂直と平行（p.121 ～ 123）　3 時間			
5	○直方体の面と面の垂直・平行の関係について理解する。	・直方体の面と面の垂直・平行の関係を調べる。	知①②：発言・ノート
6	○直方体の辺と辺の垂直・平行の関係について理解する。	・直方体の辺と辺の垂直・平行の関係を調べる。	知①②：発言・ノート

7	○直方体の面と辺の垂直・平行の関係について理解するとともに、身の回りで垂直・平行になっている辺や面を探そうとする。	・直方体の面と辺の垂直・平行の関係を調べる。 **【使ってみよう】** ・教室の中で、垂直と平行の関係になっている辺や面を探す。	知①②：発言・ノート 思③：発言・ノート 態①：発言
4　位置の表し方（p.124 ～ 125）　2 時間			
8	○絵地図に示された建物の位置の表し方を考えるとともに、平面の上にあるものの位置を、数を用いて表すことができる。	・絵地図に示された建物の位置の表し方を考える。	知④⑤：発言・ノート 思④：観察・発言 態②：発言
9	○絵地図での建物の位置の表し方をもとに、展望台の位置の表し方を考えることを通して、空間の中にあるものの位置を、数を用いて表すことができる。	・展望台の位置の表し方を考える。	知④⑤：発言・ノート 思④⑤：観察・発言
学習をたしかに（p.126 ～ 127）　1 時間			
10	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「直方体と立方体」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①～⑤：ノート 思①～⑤：ノート 態①②：ノート
※	○「ぐっとチャレンジ」（p.155）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

●　算数ジャンプ　（下 p.128 ～ 133）

3 月上旬［3 時間］

時間	学習活動
1	○トライアスロンについて、与えられた資料をもとに、長さや時間に着目して、コースや記録を考察する。
2	○とびだすカードについて、与えられた情報をもとに、平面図形や立体図形の性質に着目して、そのしくみを考察する。
3	○十の位の数が同じで一の位の数の和が 10 になるかけ算について、その特別な計算の仕方を考察する。

＊　レッツ プログラミング　（下 p.134 ～ 135）［配当時数なし］

時間	学習活動
※	・「レッツ プログラミング」は、予備時間や家庭学習などを通して弾力的に扱う。

●　4 年のふくしゅう　（下 p.136 ～ 140）

3 月中旬［3 時間］

時間	学習活動
1 ～ 3	○1 2＜見方・考え方をみがこう＞で、単元で培った数学的な見方・考え方を振り返る。 ○3以降で、4 年の学習内容の理解を確認する。 ＊時間内で扱えない問題は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に取り組ませる。